

## 3. 世の中の動向

---

### 3.1. 世の中の動向

現在、世の中の価値観に大きな変化が見られてきています。より多くの成長を求め、効率化、スピードを競ってきたこれまでから、安定／成熟、ゆとり、くつろぎ、個性、自然などを大切に考えるようになってきました。中でも、環境意識の向上は環境教育への関心の高まりにつながり、協働意識は、住民参加型の公共施設のあり方の検討や企業参加などにつながってきています。

これらの世の中の動向は、動物園の今後を考える上で、欠かせないポイントとなってきました。

#### 1) 観光

近年、日本の観光客の動向は大きく変化してきています。少子高齢化で成熟した社会では、観光振興＝交流人口の拡大、観光需要の創出により地域経済を活性化させる動きが起きています。従来の物見遊山的な観光旅行に対して、テーマ性が強く、人や自然とのふれあいなど体験的要素を取り入れた新しいタイプの旅行と旅行システム、ニューツーリズムが注目されており、環境体験型のエコツーリズムはその代表格にあります。また、釧路市としても「釧路市観光振興ビジョン」に見られるように、観光への積極的な取り組みを始めています

旭山動物園を代表格とした動物園の観光資源としての可能性への取り組みが円山動物園などでも行われ始めています。

#### 2) 企業の社会貢献活動

近年日本では、企業の社会貢献活動（CSR）が盛んに行われるようになってきました。活動内容としては、社会福祉、芸術・文化、教育、環境保全など様々な分野に渡って行われています。

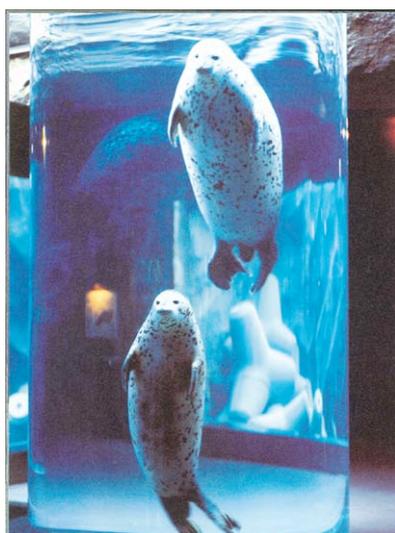
円山動物園のように、企業による動物園への CSR としての参加が見られるようになってきました。これは、動物園が学術研究、教育、文化、環境といった多面的側面があるためだと考えられます。

## 3.2. 動物園の動向

これまで動物園は、子どものレクリエーション施設としての側面が強く、近年の少子化や珍獣の減少に伴い、全般的に来園者数の減少が見られてきました。そのような環境の中、日本動物園水族館協会が示す「レクリエーション」「教育」「自然保護」「研究」という4つの動物園の目的に「種の保存」「環境教育」の考え方が見られるようになってきました。

それとともに、動物展示の方法も近年大きく変化し、動物福祉の視点に立ち飼育動物の幸福な暮らしを実現するための環境エンリッチメントという考えがみられるようになり、それを実践した「行動展示」「環境一体型展示（ランドスケープイマージョン）」という動物展示方法が行われるようになってきました。

これにより、来園者が驚きと感動を感じ、環境教育へとつながっていく事で、旭山動物園に見られるように、大きな話題となり、動物園自体が復権してきています。



旭山動物園の行動展示



ズーラシアの環境一体型展示

## 4. 釧路市動物園の価値

これまでの「釧路市動物園の特性と課題」や「世の中の動向」を踏まえると釧路市動物園には、以下のような独自のすばらしい価値があり、これらを生かす計画づくりを行っています。

### 本物の釧路大自然の入り口 大自然の恵み 大自然の命

釧路らしい湿地環境

シマフクロウなど本物の自然の中の本物の北海道の動物

阿寒から太平洋まで、森と海とを結ぶ位置にある動物園

ひがし北海道における観光動線の入り口

### 敷地の広さ その中でのゆったり、のんびり感

47.8ha もの広大な敷地面積

動物を見るだけでなく、ゆったり自然観察をしたり、くつろぐことができる

### 豊富できれいな水

動物飼育を支える、きれいな地下水

きれいな水で生き生きとした動物達

### 高い飼育力 野生動物の保護活動

長年の蓄積による高い飼育力

地域を支える、野生動物の保護活動

### 市民、企業などとの連携のはじまり

始まってきた、寄付や奉仕活動

動物園整備基金の設立

## 5. 基本方針

### 5.1. 基本理念

# 「いのちとふれあい、いのちをつむぐ」

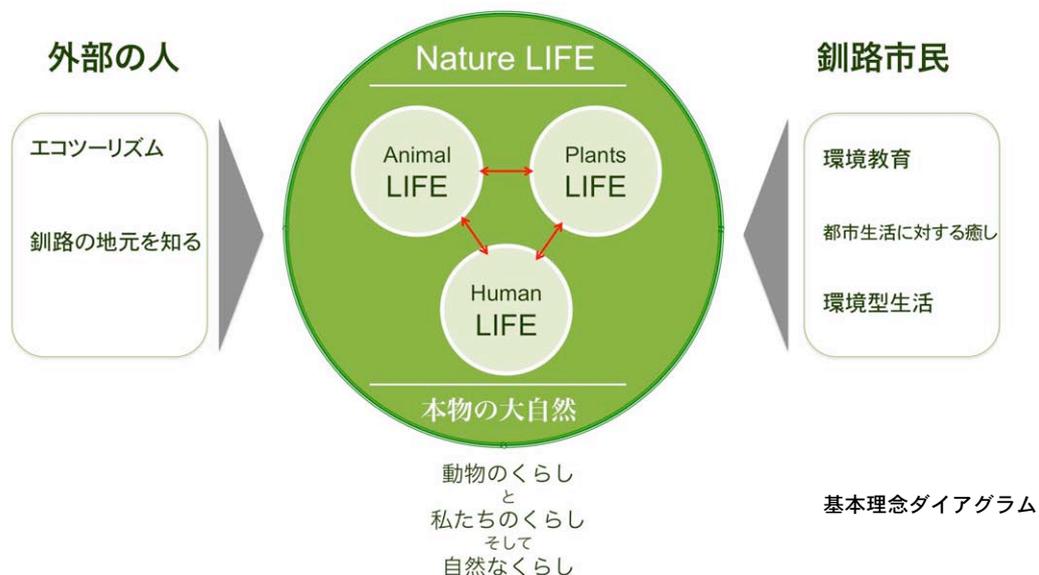
—何度でも来たくなる動物園—

自然とふれあうことから得られる感動や安らぎは人間性の回復をもたらし、豊かな心を育てます。そうした自然環境と都市機能の調和を図り、魅力あるまちづくりを進めるためには、自然に対する理解を深めることが不可欠です。

しかし今、人間の活動が野生生物を激減させ、地球環境を変え、めぐり巡って私たちの生活を脅かしています。かつて絶滅の危機にあったタンチョウを復活させた努力を、今度は野生動物が自力で生きていくために必要な生態系の保全に振り向けなければなりません。

たくさんの生き物が網の目のようなつながりの中で暮らしています。動物たちとふれあい、生き物相互のつながりの不思議やおもしろさを知ったとき、かけがえのない地球において人間もまた自然を構成する一員であり、共に生きていくことが私たちの生活を豊かにすることに気づかせてくれます。

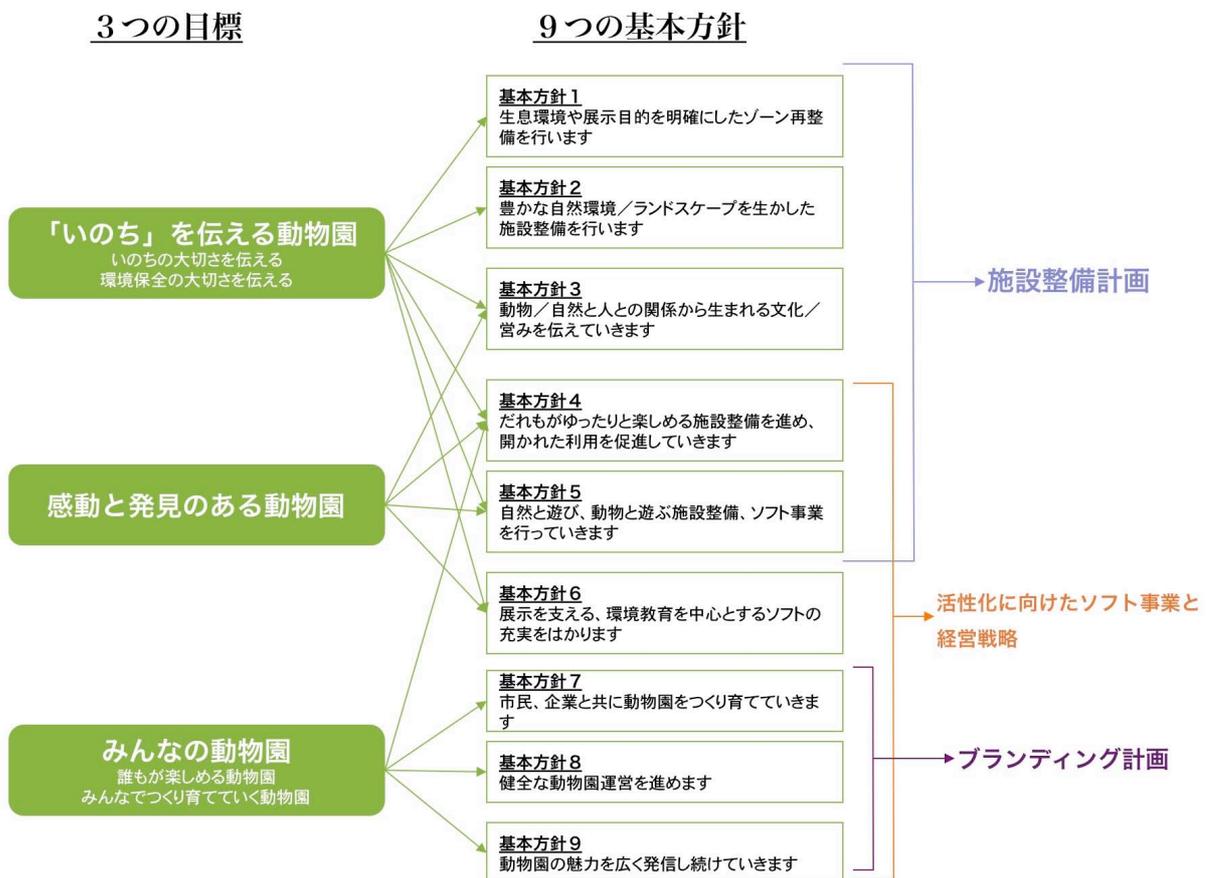
それぞれの生き物が伝えようとしているいのちとそれをはぐくむ自然にふれ、この豊かな環境を次代に残すために何が必要かを考えることができるよう、動物園はいのちとふれあい、いのちをつむぐ役割を担います。



## 5.2. 目標と方針

動物園には国籍、年齢を問わず、たくさんの方が来園されます。どのような方がいつ訪れても、動物園から帰るときには「楽しかったね、また来ようね」と言ってもらえる動物園でありたい。楽しかったからまた行ってみたいという気持ちを持ち続け、何回行っても新しい発見がある、釧路市動物園でしか味わえない経験や感動がある、そんな動物園でありたいと願っています。

釧路市動物園は、基本理念に沿って次の3つの目標と9つの基本方針にて動物園づくりを進めていきます。



目標と方針の関係

## 目標1：「いのち」を伝える動物園

生きている動物を通して動物園は、いのちの大切さを伝えます。目の前にある「いのち」と「いのちのつながり」とおして、さまざまな動物たちをはぐくんできた多様な自然環境とその保全の大切さを伝えていきます。

### 1) いのちの大切さを伝える

動物園では、一般家庭で飼育することのできない危険な動物や大型の動物ばかりではなく、親しみやすい小さな動物までさまざまな動物の誕生から死までを伝えていきます。動物との出会いから生まれる動物への興味や関心が、新たな好奇心や想像力を刺激し、いのちや自然のいとなみの不思議さを気づかせてくれます。

### 2) 環境保全の大切さを伝える

地球温暖化の影響をもっとも受けやすい寒帯地域に暮らす動物たちが、今、絶滅の危機にあります。釧路という冷涼な気候を利用して、こうした動物たちの飼育・繁殖を進め、地球規模の環境保全について考えていきます。

それとともに、私たちの住む道東に生息するシマフクロウ、タンチョウをはじめ希少動物の野生動物としての存在感や力強さを伝え、命や環境問題について考えるきっかけとしていきます。

また、野生動物の保護・野生復帰活動を継続的に行っていき、この活動を通して身近な環境保全の大切さを伝えていきます。

## 目標2：感動と発見のある動物園

来園者誰もが期待することは、動物たちが活発に動き、いきいきと暮らす姿を見ることです。子どもたちが目を輝かせて夢中になるような動物との出会いは、それを見守る大人にも満足感をもたらし、かつて子どもであったころの感動がよみがえることにもなるでしょう。

そのためには、動物たちがいきいきと暮らし、安心して子どもを生き育てられるように環境を整備し、見せ方や解説を工夫することで、現在飼育している動物のこれまで気づかなかった行動を見てもらえるような展示が必要です。動物たちにストレスを感じさせることなく、いきいきとした行動を再現できれば、入園者の満足度を高めることができます。同じ目線で間近に見せる展示は動物との距離を縮め、あらたな感動と発見につながっていきます。

## 目標3：みんなの動物園

### 1) 誰もが楽しめる動物園

当園の特徴である広い敷地を最大限に活用し、既存の自然景観を生かしながらゆったりと動物たちが配置された園内で過ごすことで、日常の暮らしから離れ、開放感を味わいながら動物たちと出会うことができます。

そのためには、1日をゆっくりと過ごすことのできる休憩施設はもちろん、誰もが安心して園内を移動できるようなユニバーサルデザインに配慮した園路や案内板を整備し、移動手段や利便施設の充実と同時に、ガイドスタッフの配置等ソフト面での対応も必要です。

### 2) みんなでつくり育てていく動物園

誰もが楽しめるとともに、みんなに関わり、みんなでつくり育てていく動物園を目指していきます。

### **基本方針1：生息環境や展示目的を明確にしたゾーン再整備を行います**

動物を生息環境ごとに分け、動物展示施設を配置していく事で、その動物の生息環境や行動、人との関わりを分かりやすく伝え、環境教育にもつなげていきます。

### **基本方針2：豊かな自然環境／ランドスケープを生かした施設整備を行います**

釧路市動物園は、豊かな自然環境に囲まれた動物園です。通常の〇〇館といったような建築施設にたよった動物展示施設ではなく、この自然環境、ランドスケープをいかした動物展示を行い、ランドスケープとしてそのまま丸ごと伝えていきます。

### **基本方針3：動物／自然と人との関係から生まれる文化／営みを伝えていきます**

動物が生息する環境ごとに、動物の生態が異なるように、人の文化や営みも異なります。その中でも、その動物や自然とそこに住む人との関わりから生まれてくる文化／営みを動物展示とともに伝えていきます。

### **基本方針4：だれもがゆったりと楽しめる施設整備を進め、 開かれた利用を促進していきます**

自然豊かな広い環境をだれもがゆったりと満喫できるようユニバーサルデザインに配慮した園路、サイン等の施設整備を行っていきます。それとともに、誰もが動物園をプログラムやイベント等で利用できるよう、利用を開放し、様々な利用／活動が動物園内で展開されていく事を促進していきます。

### **基本方針5：自然と遊び、動物と遊ぶ施設整備、ソフト事業を行っていきます**

森や湿地などの自然環境を生かした遊び場を整備する事で、自然環境をより身近で感じられるようにしていきます。それとともに、動物展示施設内にある動物のための遊び場と同じ遊び場を園内に隣接させる事で、動物と同じように遊んでいる感覚を生み出し、動物への興味や新たな発見を生み出します。

### **基本方針6：展示を支える、環境教育を中心とするソフトの充実をはかります**

日々の動物飼育活動においての観察、記録、研究を通し、来園者により動物への理解を深めてもらえるよう、解説員によるガイドの充実、視聴機器の貸し出し、手作り解説板の整備を行っていきます。それと同時に、夜間動物園や、裏側探検など参加型イベント、学校教育との連携プログラムの充実を図り動物園への関心を高めます。

### **基本方針7：市民と共に動物園をつくり育てていきます**

タイガ・ココアを契機に、様々な市民や企業などの団体が動物園に対してご協力をいただき連携しはじめてきています。これを契機により充実した市民と共にある動物園をつくり育てていけるよう、多様なメディアを使い情報発信を行い身近に動物園を感じる事ができるようにします。それとともに、市民や企業などの団体が関わる事ができる環境を作り出していきます。

### **基本方針8：健全な動物園運営を進めます**

入園料や遊戯施設収入の増を図る一方で、経費節減に取り組む必要があり、動物園自身の節減努力と共に、個人や団体、企業に対しても物心両面にわたる支援を求めながら、魅力ある動物づくりに向けた管理運営を行なっていきます。

リピーターを増やしていくとともに、周辺施設との連携、観光客の誘致、冬期利用の促進を図り、収入増を目指していきます。

### **基本方針9：動物園の魅力を広く発信し続けていきます**

釧路市動物園にある魅力が明確に伝わる、ロゴ、名称、キャッチフレーズなどの検討を行い、それを明確に伝えていきます。継続的に旬な情報など広く魅力を伝えていくとともに、市民、観光客、子ども、大人などターゲットを明確にし、それぞれに訴求する伝達方法を検討していきます。

## 6. 施設整備計画

### 6.1. ゾーニング計画

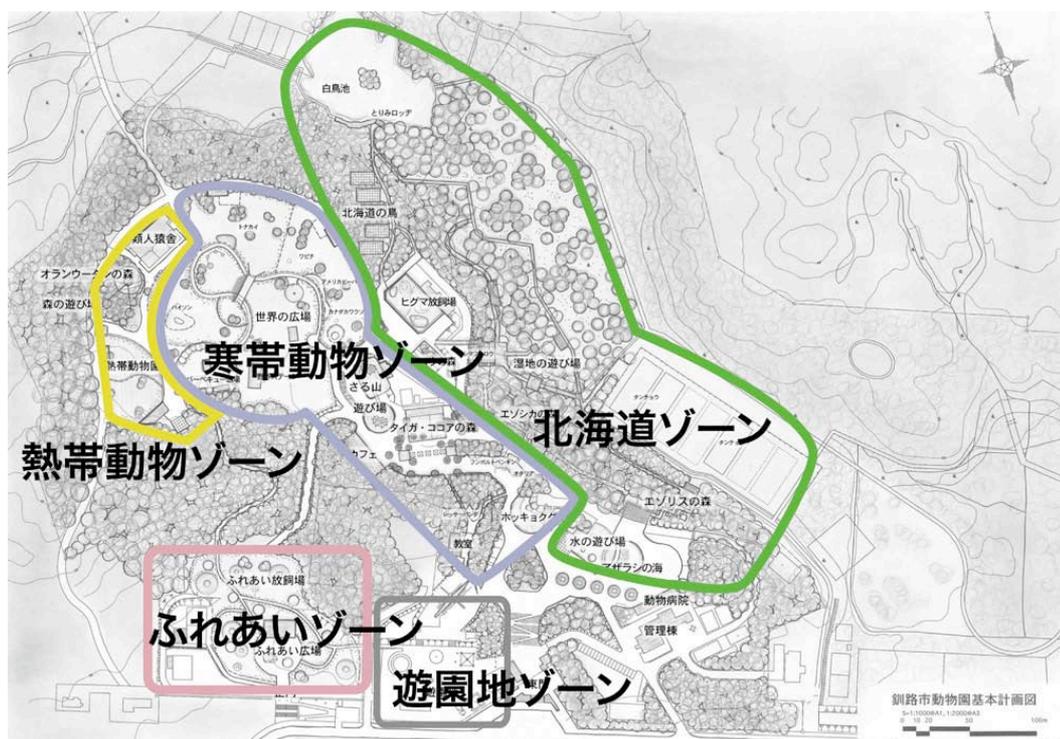
基本方針1：生息環境や展示目的を明確にしたゾーン再整備を行います

基本方針2：豊かな自然環境／ランドスケープを生かした施設整備を行います

基本方針3：動物／自然と人との関係から生まれる文化／営みを伝えていきます

基本方針5：自然と遊び、動物と遊ぶ施設整備、ソフト事業を行っていきます

動物舎の老朽化に伴ない、今後は改修や改築が不可欠になりますが、動線を考えながらゾーンごとにテーマを設定し、それに合わせて現在飼育している動物の再配置を行います。しかし、動物が死亡した場合の補充は年々難しくなっています。その場合はそれぞれの展示目的に合った手に入りやすい別の動物に代えていくことも必要となります。



ゾーニング図

## 1) 北海道ゾーン ～ふるさとの動物たち～

### 本物の北海道の自然の中に生息する動物展示を行います

北海道ゾーンの豊かな自然環境を生かし、北海道に生息する動物を鳥類、昆虫、植物などを含めた生態環境として展示していきます。釧路市民にとっては、暮らしの中で身近であったり、見ることはあるが、近くでは見るできないような動物達の新たな動きや生態などを再発見することで、身近な動物との関係性、生活を考えるきっかけとなります。それとともに、外の人にとっては、地元の自然環境を知り学ぶ、エコツーリズムのような要素にもなります。

### 森から海へつながる流域として、一連のつながりを伝えていきます

釧路市は阿寒から太平洋まで、森から海まで一連の流域を抱えており、釧路市動物園もその流域の中にあります。「森は海の恋人」と言われるように、森と海との環境は独立した関係ではなく、密接な関係にあり、その関係がわかるよう、海から森まで、一連のストーリーで伝える動物展示施設配置、サイン計画としていきます。

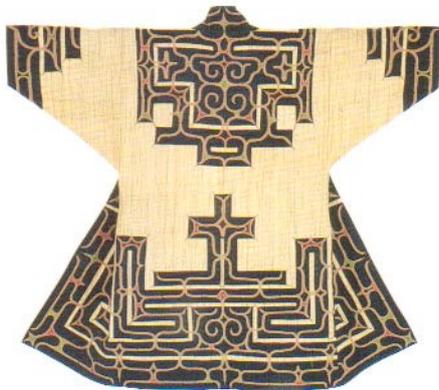


阿寒から太平洋までの流域

## アイヌの人たちの自然や動物との関わり、文化を伝えていきます

先住民族アイヌの人たちは、人間に恵みをもたらす動物たちを「カムイ」として敬意を払い、自然と共に暮らすための数々の知恵を受け継いできました。こうした考え方はこれからの地球環境保全に大きな役割を果たすと考えられ、自然との共生モデルとして動物の展示を通して伝えていきます。

サインなどだけでなく、舗装のパターンなどにアイヌ文様を施す事などで、ランドスケープとしてアイヌ文化を伝えていき、その中での動物とのかかわり合いについてしっかりと伝えていきます。



アイヌの伝統衣装



アイヌの伝統工芸

### 展示動物

ゼニガタアザラシ、ヒグマ、エゾリス、エゾシカ、タンチョウ、シマフクロウ、エゾクロテン、エゾモモンガ、オジロワシ、オオワシ、クマタカ、ハヤブサ、トビ、オオタカ等

### 主要な施設

アザラシの海、水の遊び場、エゾリスの森、タンチョウケージ、エゾシカの森、クロテン／エゾモモンガ舎、シマフクロウの森、フクロウの森、ヒグマ牧場、木道、とりみロッジ、湿地の遊び場等

## 2) 寒帯動物ゾーン ～寒さを生きる知恵～

地球温暖化の影響を最も受けやすい寒帯動物の展示を通して、私たちにとって身近な「寒さ」から、地球規模での環境問題を振り返るきっかけを作ります。

### 希少種の繁殖活動の一翼を担います

寒帯動物にはホッキョクグマやアムールトラなど希少種が多く、釧路の冷涼な気候を生かした繁殖活動の一翼を担うことで国際希少動物の保全に貢献していきます。また、トナカイのように本州では繁殖しにくい動物の繁殖群を維持し、全国の動物園に供給していく基地となることもできます。アメリカビーバーやカナダカワウソなどの北方系動物の繁殖を進めていきます。

### 湿地環境に生息する動物の本来の生き生きとした姿を見せていきます

北海道ゾーンの環境に似た湿地環境に生息するアメリカビーバー、カナダカワウソの展示を豊富なヤナギ、水を活用し充実させ、動物本来の生き生きとした姿を見せるような展示を行っていきます。



ビーバーダム



カワウソの生き生きとした動きを楽しむ

## タイガ・ココアの森を造成し、環境活動へ取り組みます

アムールトラは、生息する針葉樹林が、人により伐採されることで生息環境が失われ、国際希少動物となっています。タイガ・ココアは釧路市動物園で生まれ育ち、本来自分たちが生息する針葉樹林帯を知らずにいます。

市民と共に動物舎の中や周辺に針葉樹を植樹し、樹林形成活動をする事で、本来の生息環境に近い環境を作り出すとともに、市民にとって自然環境に対して考えるきっかけを提供します。



森の中で生き生きと遊ぶアムールトラ



アムールトラの住む森

## 同じ寒冷気候の世界の文化を伝えていきます

同じ寒冷気候に住むイヌイットやアメリカ先住民の文化をトナカイ、アメリカバイソン等との関係を通して伝えていきます。我々やアイヌの文化との比較をし理解していく事で、それぞれの環境や動物との関わり合いの理解を深めます。



インディアンの文化とバイソンの展示



イヌイット文化の展示

## **展示動物**

ホッキョクグマ、オタリア、フンボルトペンギン、アムールトラ、ニホンザル、アメリカビーバー、カナダカワウソ、ワピチ、トナカイ、アメリカバイソン、レッサーパンダ等

### **主要な施設**

ホッキョクグマ舎、オタリア／フンボルトペンギン舎、タイガ・ココアの森、サル山、  
ビーバー／カワウソ園、世界の広場、レッサーパンダの森、遊び場、カフェ等